

特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟

2019年度 第4回理事会

議事録

日 時：2020年6月20日（土）13：00～15：30

場 所：リモート開催

出席者：椎名茂、古市隆一、隅野礼雄、安藤佳代子、二星謙一、鈴木久三郎、保科実、東海林史朗、内海けい、小林清美、岩間秀子、大日方邦子、渡辺孝次、中村実彦、荒井秀樹、狩野亮、夏目堅司、櫻本利幸、徳田康（19名）

委任出席者：山口聖子、新田佳浩、井上真司、中村勝彦、藤本泰輔（5名）

出席監事：宮田隆司（1名）

欠席監事：大内智（1名）

椎名会長より定足数の確認がなされ、24名中名出席24名（委任状出席を含め）であり、定足数を満たし本会は成立するとの発言がなされた。議事録署名人には、古市理事、隅野理事が指名された承された。書記には、事務局石丸が指名された。

会長より次第の確認がなされ、定款の則り議長は会長が行うことが確認され会議が開始された。

椎名会長挨拶：コロナが少しづつ収束に向かいつつあり、事務局も少しづつ出勤するよう体制になってきた。皆さんも元通りの生活に早く戻れるようにしてください。

コロナの影響で理事会がオンライン会議で出来るようになったことは良かった。

【審議事項】

1. 理事候補者の推薦と役員候補選出委員の選任について

椎名：理事候補者、高浜さんの紹介。営業一筋で企業のトップとのコミュニケーションに長けている。新規スポンサー対応を中心とした活動を予定。既存のスポンサーとのコミュニケーション維持を期待している。

古市・隅野：本人と会って話をした内容について説明がありました。

高浜：自己紹介。

議長：高浜さんを新理事候補として推薦することと、これから総会で承認されるまでの間、理事待遇で活動してもらうことについて承認を求めたところ、全員一致で承認された。

2. 令和2年度の強化戦略プランについて

大日方：強化戦略プランは毎年1回、競技団体・パラ競技3チーム作成して理事会の承認を受けたものをJPC・JSCに提出している。

第1部は団体の概略基本方針・ビジョン・実績・目標・財務計画等を記載したものの。

第2部はチーム毎に現状と目標、戦略方針、モニタリング及び検証・評価にまとめて記載しています。

アルペンチームの現状と課題について説明、21年のマイルストーンとしてのベンチ

マーク大会は、コロナの影響があるために世界選手権だけでなく3月のワールドカップも含めることを検討している。チェアスキーの用具開発やスタッフの若手育成にも力をいれています。

渡辺：ノルディックチームには、クロスカントリーとバイアスロンの2競技あり2チーム体制で活動しています。

現状については、シットと視覚の選手発掘が必要。大学と連携してストラクチャーの開発でフッ素WAX問題に対応している。

21年3月の北京プレ、世界選手権、国内WC最終戦をターゲット大会にしたい。

二星：19-20年からバンクドスラロームにデュアルバンクドスラロームが加わった。チームの現状について説明。マイルストーンについては、21年世界選手権とワールドカップランキングを考えている。

議長：強化戦略プランの内容について承認を求めたところ、全員一致で承認された。

3. 規程、基準の改訂について

(事務分掌規程、ユニホーム着用基準、選手等不服申立規程)

石丸：女性委員会が設置されたことに伴う、事務分掌規程の改訂について説明した。

保科：ユニホーム着用基準に、名称の変更と保管期間と返却について一文を加えた改訂について説明があった。

石丸：JPC強化委員会ヒアリングにて修正が必要と指摘された、選手等不服申立規程の修正について説明した。

議長：規程・基準の改訂について、承認を求めたところ全員一致で承認された。

4. 20-21年強化指定選手選考基準について

大日方：パラ3委員長で協議した。基本方針は4点、競技力の評価軸を1本化する。WPSS公認大会の成績を基準とする。期の途中での追加指定を認める(C指定から)。追加指定を認める選手についての基準を設けること。の4点です。

一覧についての説明、パラ競技はA、B、C、次世代、で指定基準を設定。IDについてはアルペンとノルディックで基準の指標に差が出ているので、荒井さんを中心に調整して次回の理事会に報告します。細かい修正は、強化本部長に一任していただきたい。

指定から外れる選手については、各委員長から対象者に伝えることについても承認をいただきたい。

議長：細かい修正は強化本部長に一任することと、内々定した選手に委員長から通知することについて承認を求めたところ、全員一致で承認された。

5. 特別支援学校へのアンケート調査のHP公開について

安藤：特別支援学校(冬の活動を行っているであろう地域の学校)にアンケート調査を実施した。

アンケート調査結果をまとめたものが資料です。

連盟がこの結果をベースに取り組むべき普及活動を最後にまとめました。(P37)
PDF をホームページに載せるようにしたいと思っています。

議長：アンケート調査結果をホームページに掲載することについて承認を求めたところ、全員一致で承認された。

【報告事項】

1. 19-20 シーズンの活動の振り返りについて

大日方：アルペン委員会、ワールドカップ最終戦をメインターゲット大会にしていたがコロナで中止になった。1月ワールドカップではメダルを取れた。2月は菅平でアジアカップを開催できた。3月下旬安比で希望者での合宿を行った、その中ではチェアスキーの用具開発を企業と選手を交え行った。

次世代選手達の12~3月にかけて月1回の活動を始めた。10月の国際クラス分けに参加出来た。

渡辺：ノルディック委員会、バイア世界選手権は直前で中止になった。3月のワールドカップも中止になり今回はワールドカップで一つもメダルを取れなかった。ベテラン・若手ともにベースの力をつけてきた。阿部選手は4位のレースがあり、北京でもメダルの期待が出てきた。

IDの選手が企業の支援を受けることが出来るようになった。

田山のバイア競技拠点の充実、ストラクチャー開発、大通公園フェスタ等の活動をしました。

二星：レースの中止はあったが、平昌以降予定通りの競技力の向上が図れた。国内大会は雪不足でキャンセルになったが、代替として北米で有意義なトレーニング活動が出来た。WC最終戦は1戦のみだったが、良い結果を残すことが出来た。

東海林：ID-ASについてはVIRTUS世界選手権が中止になった。大会はID選手権とアジアカップの2大会だけであったが、アジアカップで成績を残すことを目標にして良い結果を残せた。

隅野：ゴールドパートナー3社（コーセイ、キトー、コープ共済）に加え、前田建設がゴールドパートナーとなった。SNSでの発信等これから進めたいと思っていたが出来なかった。

スポンサーカップや感謝のタベが出来なかったことが残念でした。

夏目：雪不足でスノーボードサポーターズカップ、コロナでチェアスキーチャンピオンシップ・3月の北海道の3大会が中止。IDアルペン大会とポールキャンプを開催した夜間瀬スキー場は来シーズンも利用する予定

パラサポ助成で初めての体験会が実施出来た。アルペンとスノーボードは共同でしたが、クロカンは別開催でしたので、次年度は3競技合同で計画したい。

アジアカップ大会が皆さんの協力で開催・運営出来たことが評価できる。

2. 2021年のワールドカップ国内開催について

保科：国内でのワールドカップ開催について、ノルディックは渡辺さん・荒井さん、アルペンは大日方さん・桜本さん、プラス保科で進めている。当初は北京プレ大会の後にアルペン・ノルディック共に札幌開催で進めていたが、コロナの影響と日程の件で断念した。

アルペンは IPC と打ち合わせしながら 3 月 1 日から 4 日乃至 5 日で開催の予定、候補地は札幌テイネから長野県の菅平か白馬で検討中。(GS と SL 2 レースづつの予定)
コロナ禍で、スポンサー集めが難しい中なのでミニマムで開催の方向、費用は 2000 万円～2500 万円程で考えている。基金助成や JPSA からジャパラ共催金の補助が期待出来る。

ノルディックは 3 月 16 日～20 日にクロカンのみの大会として開催予定。3000 万円から 3500 万円程で、基金助成や協賛社、札幌市等からの補助を期待している。電通北海道とバリオンでミニマム予算案を取りまとめている。

6 月末までに予算案作成、7 月始めには連盟としてミニマム大会としての開催可否を決定する。

年内にはコロナの状況を見て、最終的に実施するか否かの決定を予定している。

3. 令和 2 年度のパラサポ助成金について

石丸：資料に沿って、令和 2 年度のパラサポ助成金事業の内容・金額について説明した。

4. 令和 2 年度の専任スタッフ・アスリート助成について

石丸：資料に沿って、令和 2 年度の専任スタッフとアスリート助成に推薦し認定されたスタッフ・選手について説明した。

5. ID-AS チームの新体制について

大日方：チームの新体制メンバー交代について説明がありました。

東海林：大久保さん・猪狩さんの体制から変更しました。千葉さんは全日本で活躍し、富良野の WC に出場した人、SAJ の仕事をしていましたが連盟の仕事をやってくれることになった。千葉さんのサポートしてくれるメンバーを新たにスタッフを加えました。

6. スポーツ活動再開ガイドラインについて

大日方：JPC から各競技団体に作成依頼がありました。コロナの影響下フェーズに沿って活動をどのように再開していくかをパラ 3 競技の委員長で作成しました。JPC へ提出して承認を受けています。

このガイドラインに沿って連盟の活動を行うこととなります。ホームページにも公開する予定です。

7. WPSB への報告について

二星：6 月 17 日にアントニオ氏から連絡があり、北京パラのスノーボード競技について下記の 3 点について意見を求められた。

1. バンクドスラロームがデュアルバンクドスラロームに変更される。
2. UL (上肢障害) を女子競技に加える。
3. 2022 北京大会のみ、女子の LL1、LL2 を一つに統合する。

以上について賛成する旨を報告しました。。

8. JADA 加盟について

石丸：JADA に連盟の加盟申請手続きを行ったが、現在審査中で決定は未だおりていないことを報告した。

